

第1章 基礎知識

【正誤式】(○か×で回答)

1. 嘉納治五郎師範は、最初に天神真楊流柔術を学んだ。
2. 講道館柔道は明治 15 年に創設された。
3. 乱取では危険な技(当身・肘関節以外への関節技等)も自由に使用してよい。
4. 「柔道とは心身の力を最も有効に使用する道である」は嘉納師範の言葉である。
5. 坐礼では上体を約 30 度前に曲げる。
6. 柔道の修行の目的は攻撃防御の技術習得のみである。
7. 「形」は決まった順序で攻防の理合いを学ぶ稽古である。
8. 道場では正坐が基本である。
9. 乱取は形で学んだ理論を実地で応用する稽古である。
10. 得意技は 10 種類以上作るべきである。
11. 互角稽古は同じくらいの実力の者同士で行う稽古である。
12. 坐礼は両手の第 2 指の指先を約 6cm 離して畳につける。
13. 礼法は心を外に表す所作である。
14. 講道館柔道の意義は柔の理だけで説明される。
15. 精力善用とは社会に貢献するために力を最も有効に使うことである。

【正誤式:解答】

1. ○
2. ○(明治 15 年 1882 年)
3. ×(危険な技は形の中だけ)
4. ○
5. ×(坐礼は上体を深く、立礼が約 30 度)
6. ×(社会に役立つ人間になることが目的)
7. ○
8. ○
9. ○
10. ×(三つ四つ程度で良い)
11. ○
12. ○
13. ○
14. ×(柔の理だけでは説明できないと述べている)
15. ○

【穴埋め式】

1. 嘉納師範が初めに師事したのは()流である。
A. 起倒流 B. 天神真楊流 C. 柳生流
2. 坐礼の手の間隔は約()である。
A. 約 3cm B. 約 6cm C. 約 10cm
3. 立礼は上体を約()前に曲げる。
A. 約 15 度 B. 約 30 度 C. 約 45 度
4. 「精力善用」と「自他共栄」は柔道の()である。
A. 礼法 B. 根本原理 C. 技術名称
5. 講道館柔道が始まったのは東京・下谷の()である。
A. 養心館 B. 永昌寺書院 C. 本願寺道場
6. 形の修行法では()も練習できる。
A. 当身技 B. ドリル技 C. 空手技
7. 礼とは()を尊重する心から生まれる。
A. 自己 B. 他者 C. 勝敗
8. 乱取は形で学んだ()の実地応用である。
A. 歴史 B. 理論 C. 礼法
9. 坐礼は()に向かって正坐して行う。
A. 床 B. 礼をする対象 C. 窓側
10. 柔道の究極の目的は()である。
A. 勝利 B. 技術習得 C. 世を補益すること
11. 自他共栄とは()を図ることである。
A. 自分だけの繁栄 B. 社会との調和 C. 力の競争
12. 稽古では()を意識しないで、基本を正しく行うことが大切である。
A. 姿勢 B. 勝負 C. 受身
13. 多くの()と稽古することが大切である。
A. 同体格の相手 B. 異なる相手 C. 下の級の者のみ
14. 帯の中央を()に当てる。
A. 背中 B. 腹部中央 C. 左腰
15. 「講義」では()を学ぶ。
A. 技の原理と心構え B. 道場清掃 C. 審判法
16. 道場では()を旨とする。
A. 静粛 B. 大声 C. 無礼
17. 精力善用は()にも応用できる。
A. 攻撃防御のみ B. 人間生活すべて C. 学校教育に限定

【穴埋め式:解答】

1. B(天神真楊流)
2. B(6cm)
3. B(30 度)
4. B(根本原理)
5. B(永昌寺書院)
6. A(当身技)
7. B(他者)
8. B(理論)
9. B(礼をする対象)
10. C(世を補益すること)
11. B(社会との調和)
12. B(勝負)
13. B(異なる相手)
14. B(腹部中央)
15. A(技の原理と心構え)
16. A(静肅)
17. B(人間生活すべて)